

## 特別支援学級（情） 国語科学習指導案

日時 平成30年9月27日（木）5校時  
児童 第3学年 男1名 女0名 計1名  
指導者

- 1 単元名 読んで、感そうをつたえよう
- 2 学習材名 「道具を使う動物たち」（東京書籍3年上）
- 3 付けたい力と言語活動

### 〈付けたい力〉

◎中心となる語や文に注目して、段落ごとに書かれている内容をとらえる。 C(1)イ

### 〈言語活動〉

#### 【視点1】

◎道具を使う動物探検をし、発見したことを探検日記にまとめる。

## 4 単元について

### (1) 児童について

本学級の児童は、2年生1名、3年生1名である。2年生児童は今年度、親学級で教科の学習を行っている。

3年A児は、2年生までは文字の読み書きに困難を抱えていたが、3年生になってからは平仮名や片仮名であれば、単語や文節を意識して読めるようになってきた。1年生の漢字を練習している段階であるため、教科書には全て振り仮名を振り、音読の練習をしている。書くことでは鏡文字になったり、促音や拗音、長音などの表記を間違えてしまったりすることが多いが、遊びの中で進んで文字を書く姿が見られるようになってきた。

日常の学習では、文を読むよりも、写真を見たり、耳で聞いたりする方が内容を捉えやすい傾向がある。

### (2) 学習材について

本教材は、道具を使うのは人間だけではないということを、七種の動物を例に挙げて説明した文章である。1学期に学習した「自然のかくし絵」と同様、序論・本論・結論で構成されており、形式段落が比較的短く、それぞれの動物が、何を食えるときに、どんな道具を、どのように使うかが明確に書かれている。動物の写真も添えられているため、具体的なイメージをもちながら読むこともできるであろう。

### (3) 指導に当たって

本単元では、段落ごとの内容を読み取ることを目標としている。児童にとって聞きなれない動物の固有名詞や動詞も出てくるため、写真を手掛かりにしたり、動作化をしたりして、その語の意味を確認したい。

教材文の構成や、どの動物がどんな道具を使うのかを整理するために、「説明文の家」の図は写真やイラストも加えながら完成させていく。

言語活動としては、「探検日記」を書く活動を行う。児童が探検家になり、動物の生態で発見した内容や感想を書きまとめることで、読み取った内容を再確認させたい。

## 5 単元の見目標

- 道具を使う動物に関心をもって読み、探検日記にまとめようとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎中心となる語や文に注目して、段落ごとに書かれている内容を捉えることができる。 【C(1)イ】
- 指示語や接続語の意味を理解することができる。 【伝国(1)イ(ク)】

## 6 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	○道具を使う動物に関心をもって読み、探検日記にまとめようとしている。
読む能力	◎中心となる語や文に注目して、段落ごとに書かれている内容を捉えている。 (イ)
言語についての 知識・理解・技能	○指示語や接続語の意味を理解している。 (イ)ク

## 7 単元指導計画 (全7時間)

次	時	学 習 活 動
第一 次	1	○学習の見通しを立てる。 ○全文を通読して内容の大体を捉え、感想を話し合う。
	2	○教材文を読み、「説明文の家」をつくる。 ・「初め」「中」「終わり」 【視点2】 ・「石を使う動物」「木の葉や枝を使う動物」「棒や木の皮・石を使う動物」
第二 次	3	○エジプトハゲワシがどんな道具をどのように使って、何を食べるのかについて読み取り、探検日記を書く。
	4 本時	○ラッコがどんな道具をどのように使って、何を食べるのかについて読み取り、探検日記を書く。
	5	○キツツキフィンチやカレドニアガラスがどんな道具をどのように使って、何を食べるのかについて読み取り、探検日記を書く。
	6	○チンパンジーがどんな道具をどのように使って、何を食べるのかについて読み取り、探検日記を書く。
第三 次	7	○段落ごとに書かれていた内容をまとめ、探検日記に振り返りを書く。
	8	○探検日記の発表会をし、本単元の学習を振り返る。

## 8 本時の指導

### (1) 目標

ラッコがどんな道具をどのように使って、何を食べるのかを読み取ることができる。

### (2) 展開

段階	学習活動と学習内容	指導上の留意点 ○支援 ◎評価
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ラッコたんけん に かけよう。</div>	○「説明文の家」を使い、前時までの学習と本時のつながりを確認させる。
展開 30分	3 学習課題を解決する。 (1) 教材文を音読する。  (2) ラッコが道具を使う様子を読み取る。 ・食べるものは何か ・使う道具は何か ・道具をどのように使うか  (3) ラッコが石を使って餌を捕る様子を動作化で確かめる。 ・両手にはさんだ石でたたいて、はぎとる。 ・おなかの上の石に貝を打ち付ける。	○食べるもの 「アワビなど」、「イガイのような二まい貝」という表現から、この2種類以外の貝も含まれることを理解させる。 ○使う道具 「海の底からひろう」、「平たい石」、「両手にはさんで」という表現から、ラッコが使う石の大きさや形に注目させる。 ○道具の使い方 「はぎ取る」、「あおむけ」「うちつける」「すばやく」「何回も」という表現から、ラッコの道具の使い方を理解させる。  ○文章から読み取った様子を、ラッコになって動作化することで、道具としての石をどのように使っているのか確認させる。
終末 10分	4 探検日記を書く。 ・探検家になって、ラッコが道具を使う様子や感想を日記に書く。  5 本時の振り返りをする。 ・学習内容を交流する。 <b>【視点3】</b> 6 次時の学習内容を確認する。	○ラッコが道具を使う様子をまとめ、探検日記に記録させる。  ◎ラッコが餌を捕るための道具の使い方を読み取っている。 〈発言・観察・ワークシート〉  ○2年生との交流を通して、本時の学習を確かめるとともに、「聞き方名人」を意識して聞くようにさせる。


### (3) 評価

B：ラッコが餌を捕るための道具の使い方を読み取っている。

支援：文章の中の記述を、写真や実物を使った動作化を通して実感させる。

(4) 板書計画

たんけんにつき	貝		たべもの
	二まい貝	アワビ	
	石	石	どうぐ
	あおむけ おなかの上 うちつける	りょう手にはさむ たたく はぎとる	つかいかた



アメリカの西海岸にすむラッコは、海底の岩についているアワビを、りょう手にはさんだ石でたたいて、はぎ取ってしまします。イガイのような二まい貝を食べるときには、海の中から貝といっしょに、平たい石をひろってきて、海面にあおむけにうき、おなかの上に石をのせます。そして、りょう手で貝を石にうちつけます。すばやく何回もたたくと、貝は口を開いてしまします。

かだい

ラッコたんけんにてかけよう

エジプトハゲワシと同じように、石を道具に使う動物には、ラッコがいます。ラッコは、アワビなどの貝が大すきです。